

令和6年度 第1回臼杵市総合教育会議 会議録

開催日時	令和6年11月8日(金) 9時30分開会(～10時50分閉会)	
開催場所	臼杵市役所臼杵庁舎中会議室	
出席者氏名	臼杵市長 中野 五郎 臼杵市教育委員会 教育長 安東 雅幸 委員 神田 岳委 委員 村上 睦美 委員 佐藤 雄一 委員 木本 邦治 (事務局) 秘書・総合政策課長 総括課長代理 副主幹	(教育委員会事務局) 教育次長兼教育総務課長 佐藤 忠久 学校教育課長 新名 敦 社会教育課長 川辺 宏一郎 学校教育課参事監 麻生 幸誠 学校教育課総括課長代理 高田 教一 社会教育課主査 佐護 慶一郎 学校教育課教育指導主事 亀井 真也 安東 信二 芦刈 勝一郎 青山 昌平
欠席者	なし	
会議事項	1. 開会 2. 議題 (1)学力向上の取組について学力向上の取組について・・・学校教育課 (2)中学校部活動の地域移行の現状と課題・・・社会教育課・学校教育課 (3)臼杵市の未来を考える中学生と市長との意見交換会について・・・秘書・総合政策課 (4)その他 3. 閉会	
開会 (事務局) 秘書・総合政策課 長	皆様おはようございます。 会議を始める前に配布資料の確認をお願いいたします。 まず、次第をお配りしております。 それと右肩に赤い字で説明資料と書いて、右肩に説明資料と書いているもの、それと資料 1、資料 2、資料 3 でございます。 なお、この会議は傍聴可能としております。本日 1 名の傍聴の希望がありますが、皆さんご了承よろしいでしょうか。	
市長・教育長 教育委員	はい。(一同了承)	
秘書・総合政策課 長	それでは、定刻になりましたので始めさせていただきます本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。 私は本日司会を務めさせていただきます、秘書総合政策課長の安東と申します。 よろしく願いいたします。 まず、右上に説明資料と書いている資料をご覧ください。 総合教育会議についてご説明いたします。市長と教育委員会の執行機関同士が十分な意思疎通を図り、教育の課題やあるべき姿を共有して、重点的に講ずべき施策について協議調整を行う場でございます。 またその説明資料の赤枠で囲んでおります、本市における教育大綱を定めております。	

<p>市長</p>	<p>この大綱のもと、家庭学校地域と連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進していくこととなっております。</p> <p>総合教育会議の説明については、以上でございます。</p> <p>それでは、ただいまより、令和 6 年度第 1 回臼杵総合教育会議を開催いたします。</p> <p>開催にあたりまして、中野市長よりご挨拶をお願いします。</p> <p>市長よろしく願いいたします。</p> <p>皆さんおはようございます。</p> <p>大変お忙しい中にもかかわらず、令和 6 年度第 1 回臼杵総合教育会議を開催いたしましたところ、教育委員全員にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>皆様には平素から臼杵市の教育行政の発展、子どもたちの育成について特段のご理解をいただいていること、また市政全般につきましてもご理解やご支援をいただいていることに対しまして、お礼を申し上げたいと思っております。</p> <p>この総合教育会議の趣旨につきましては、先ほど事務局から説明がありましたように、基本的にはやっぱり教育行政と市政が両輪になって、うまく機能しないとイケない。</p> <p>また、一番中心になりますのは、市民の負託を受けている市長が、どういう方向で、我が町の教育を進めていくのだ、その基本を定めて、それを共有しながら、教育の具体的な機能、またその責任を教育委員会にお願いして頑張っていただくということを趣旨だと理解しておりますので、常に私と教育委員さんの皆様方との間の意思疎通が大前提になってくると思っております。</p> <p>そういう趣旨で、この総合教育会議だと私は理解しております、今年度は第 1 回目を今日開催させていただきました。</p> <p>私も来年 1 月 19 日を任期で、4 期市政を担当させていただいたのですが、勇退させていただくと考えておりますし、またその中で、自分の大きな政策の柱に子ども子育て環境の充実ということをあげてきました。</p> <p>そして、そういう中で 1 つはやっぱり子ども、やっぱり教育、あるいは福祉、あるいは健康と色々な形で、部門的に側面的にサポートしていくアプローチしていくけれど、やっぱり子どもは 1 人でありますからそれをやっぱり多面的に総合的にとらえて、連携してやっていかなければいけないと考えておりまして、子ども子育て環境の充実ということで、そういうことを連携する場として、ちあポータルも作っていろいろやってきました。</p> <p>そして、令和 5 年 4 月にこども家庭庁というのができまして、子どものことをもっともっと真ん中にした社会を作っていきたいと国を挙げてそういう取り組みを今進んでおりますし、その中には、厚生労働省の福祉関係、健康関係と教育委員会が文部科学省の教育行政が対応する子どもとの間の連携ということが言われてきております。そういう中で、少子化が進む中で子どもをもっともっと大事に育てていきたいという、世論がそういうものを作っていたらと思う。こども家庭庁を作る段階で、実は私も国のその中の委員にお願いされておりました、いろいろ現場の首長として、どういう課題があるのかというようなことを、法律を作る前にいろいろ意見も言わせていただきました。なんで私にそのような話があったかということ、ずっと前から臼杵市は、ちあポータルを作ってそういうのを連携してやること、そしてそういう形でのプラットフォームを通して、いろんな情報交換しながら、子どもの施策に返していくってそういうことが実践されているということで、意見を言って欲しいと言われたのであろうと思っておりますし、そういう取り組みが少しずつ芽を出しているのかなと思っております。</p> <p>具体的には、移住者の方が非常に増えておりました、その中で、若いいわゆる義務教育以下の子どもを持つお父さん、お母さんの世帯が臼杵は教育や福祉や子育て環境が良いから臼杵に住みたいという人がたくさん多くて、この 9 年間で義務教育以下の人が 560 人ぐらい増えています。</p> <p>一方それを見ますと、いよいよ統廃合を具体化しなければいけないかなという学校も、少しずつそういう人達が、その地域に移住していただいて、今まではそういう問題もあまり表面化しない</p>
-----------	--

	<p>で、今日まで来ていると思っております。</p> <p>これからもそういうところはしっかりやっていきたいと思ひますし、一番核になるのは、教育、人間形成でありますので、私の立場として後押しするという形でいろんなことをさせていただいたと思ひています。</p> <p>学力をつけていくという意味では、先生の授業力、あるいは先生の働く環境をしっかりと私の立場でできることならやっていきたいということで、教育長の意見を聞きながら、教育長の要望を受けながら、限られた予算をひねり出しながらやってきたつもりでありますし、そういうことが非常に結果も出していただいているということで、ありがたく思ひしております。また冒頭、子どもを育てる上で、経済的あるいはその生活の場での弱者対応という形でも、例えば子どもの 18 歳までの医療費の無償化、また、すべての保育料を無償化とか。</p> <p>そして、学校給食の中身を地産地消で充実させていくこと。</p> <p>また、生活に困っている家庭の子供たちの進学に対する、市独自の奨学金制度等々ですね、子どもたちを応援してきたつもりですが、まだまだ十分ではありませんし、これからもっともっと充実させなきゃいけないと思ひていますので、ぜひ皆様方と意見交換しながらやっていきたいと思ひています。</p> <p>これから、一層少子化が進むのはまず間違いないので、社会が縮小していったら、いろんな意味で、仕組みとか制度とかを変えていかざるを得ないってことが起こってくると思ひます。</p> <p>今、具体的に教育の中で言ったら、統廃合を考えていくことも進んでおりますし、具体的には部活の問題など。いろんな形でそういう問題を前提にしながら、いかに縮小していくけど中身の充実したサービスをしっかりと確保するような縮充社会と言われますが、そういう方法でどういうふうな、白杵の中で子育てを充実させていくかが大きな課題であろうと思ひていますし、これは誰が市長になってもしっかりと受け継いでいっていただけないといけない問題だと思ひますので、ぜひ教育委員の皆さん方もそういうことを踏まえて、子どもの教育のための発信をこれからも強めていただければありがたいと思ひていますし、山に登ることに例えれば、頂上、いわゆる目標っていうのはしっかりと持ちながら、毎日毎日目標のことを考えていたら、眼前の石ころにつまづいて転んでしまいますので、目標は意識しながら時々、それを確認しながら、まずは手前の道を 1 歩 1 歩上がっていくと、そういう堅実な歩みが必要であろうと思ひていますし、教育の中でもそういうことしていただいていると理解しておりますので、今日はそういうことを踏まえて、いろんなことを意見交換させていただきたいと思ひます。具体的には、学力向上と、部活として私たちの立場からは、中学生と白杵のまちをどう作っていけばいいかって若い人との意見交換の場っていうの、これは市長部局がやっています。そういうことについて、報告とか意見交換をした上、それ以外のことで、もろもろのことで、教育委員さんが、日頃気がついていることとか市長部局で考えておいた方がいいというようなことも後で出していただければと、思ひしております。</p> <p>限られた時間ですけれど、どうぞよろしく願ひいたします。</p>
<p>秘書・総合政策課 長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、早速議事に入らせていただきます。</p> <p>なお本日の会議は終了予定時刻 10 時 50 分を予定しておりますので、進行にご協力をお願いいたします。</p> <p>それでは議事の進行につきましては、本会議の議長であります中野市長に願ひしたいと思ひますので、よろしく願ひいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>私の方が、進行係をさせていただきたいと思ひます。</p> <p>まず現在の取り組み状況として本日は 3 点の議題についてそれぞれの担当課から説明を受けます。</p> <p>そして意見交換を行いますので、皆様方のご協力のほどよろしく願ひいたします。</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>なお本日の議事は記録をとりますので、ご発言される委員の方は、挙手の上、マイクをお持ちになってご発言をいただきますようお願い申し上げます。</p> <p>それでは議題、協議事項の学力向上の取り組みについて学校教育課より説明をお願いします。</p> <p>学校教育課長新名です。</p> <p>私からは資料 1 の学力向上の取り組みについて説明をさせていただきます。</p> <p>前のモニターに示したのですが、これは資料 1 と同じものでございます。</p> <p>本日はまず、大分県の学力定着状況調査の結果と、全国学力定着状況調査の結果をお示しするのですが、特に今回は 6 ページと 7 ページに児童生徒質問紙っていうのがあるのですが、特に ICT の活用について部分について引っ張ったデータになります。</p> <p>これをもとに現在、臼杵市で力を入れている ICT の活用について、ご意見、ご示唆をいただければと考えておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>ですので、1 ページから 5 ページまでは簡単に説明して、特に 6 ページ 7 ページを詳しくお話したいというふうに考えております。</p> <p>まず 1 ページの資料です。これは大分県学力定着状況調査の結果であります。</p> <p>4 月 23 日に小学校 5 年生の国語、算数、理科の 3 教科と中学校 2 年生の国語、数学、理科、社会、英語の 5 教科で実施をされました。</p> <p>その結果ですが、大分県学力定着状況調査は、まず大きな目標として、偏差値 50 を確実に超えるっていうことを目標に取り組んでいます。</p> <p>上段の方が標準スコア、偏差値ですけれども、この一覧で 50 を超えたものに黄色の網掛けをしています。</p> <p>これを見る限り臼杵市は、大分県は、英語等がちょっと超えてないところもあるのですが、臼杵市では安定して 50 をしっかり超えることができています。</p> <p>県と比べても、小学校の国語、理科がちょっと不安な部分もあるのですが、標準的にはしっかり 50 を超えていることができていますという結果になります。</p> <p>また、下段には、平成 27 年度から令和 6 年度までの推移を出しております。</p> <p>基本的に 50 をしっかり超えていることができていますところがありますので、これも基礎学力の保障ということでここはしっかりキープしていきたいというふうに考えております。</p> <p>次の 2 ページです。</p> <p>この 2 ページにつきましては、先ほどのグラフをちょっと詳しくしたものになるのですが、臼杵市の標準偏差の推移ということで、小学校と中学校を載せております。</p> <p>小学校は 50 を平均的に超えており、ちょっと令和 2 年度で落ち込んでいる時期もあるのですが、年によって多少のばらつきがあるということと、今回その結果が良い悪いで判断するのではなくて、悪い部分についてしっかり学力保障をするという形で取り組みを進めているところでございます。</p> <p>また、中学校は平成 27 年、28 年とかなり苦しい時期があったのですが、それから様々な取り組みを通して、学力向上の取り組みが進んでいるということとなっております。</p> <p>そしてこれは、同一集団の経年比較データとですが、現在の中学校 2 年生が、令和 3 年に小学校 5 年生の時に受けたときのデータがあります。</p> <p>これがどう変わったかということを示したものになるのですが、現在の中学校 2 年生が小学校 5 年生のときの数値と比べたときに、令和 3 年の小学校 5 年生のときも県と比べたらプラスということでしっかりクリアしているのですが、令和 6 年になったら県との差もかなり開くというか、かなり強みが出ているというところになります。</p> <p>そして、同一集団の比べたときに、偏差値の比較がプラスということで要するに小学校 5 年生のときに比べて中学校 2 年生でかなり伸ばすことができているというふうに考えています。</p> <p>この要因として、臼杵市は特に小中一体教育という形で、小学校、中学校の取り組み、そして近</p>
---------------	--

年では、幼稚園、幼児教育施設、小学校、中学校、そして高校まで考えてはいるのですが、その取り組みをしっかりと進めながら、小学校と中学校スムーズに進むということができているために、しっかりと学力を伸ばすことができているというに考えているという状況でございます。

続きまして、これが全国学力学習状況調査の結果です。

全国につきましては、偏差値というよりもポイントという形でご覧ください。

何点という形で見てもいいのですが、臼杵市と全国を比べたときに、臼杵市の算数は~~ちょっと~~全国に比べて全部クリアできているということで、大分県の方が、全国に比べて算数のところがちょっと弱いということ。

そして、大分県中学校を見ますと、臼杵市は国語については県と全国を上回ることができている。

数学については、県の平均を上回ることができているのですが、全国にはちょっと足りてないということで、ただ、トータルでは県も全国も上回ることができているという状況になります。

下がこれ偏差値の推移のグラフという形で載せているところです。

そして、これも同じく経年変化を見ました。

現在の中学校 3 年生が小学校 6 年生のときに受けた結果と比べてどうだったかということですが、実は小学校 6 年生のとき、臼杵市はちょっとこのグレーの網掛けをしているのですが、全国との差がマイナスという状況でした。

そして、中学校 3 年生になったら、国語はプラスに戻ったということと、数学はマイナスが 3.2 ポイントだったのがマイナス 0.5 ポイントという形で、間はかなり詰めてきたという努力がうかがえるという結果になっています。

結果、小学校 6 年生から中学校 3 年生の変化のときに、全国の差との経年変化がプラスということでもかなり伸びているということがいえるのではないかと考えています。

この結果からも、やはり小中一体教育という形で、小学校と中学校の連携をしっかりと取りながら取り組みを進めてきたという成果が上がっていると考えているところです。

続きまして 6 ページ、今日は特にここがメインになろうかと考えています。

ICTの活用についてなのですが、特に今年は 8 月、2 学期に間に合うように 8 月の末に導入が完了したのですけれども、電子黒板を市内の全クラスに導入をしました。

これ昨年度までに、実は 3 校を実証という形で、臼杵小学校と西中学校と野津中学校で電子黒板を導入して、効果を検証した、その中でやっぱり電子黒板は効果があるということで、この 8 月に全校配置という形で進めていただくことになります。

その効果があるという中身について、これは 4 月に取ったデータなのですが、その部分から検証していきたいと思います。

これがちょうど 4 月の末のデータで、また今年度からの取り組みなので感覚的ですが、今はもつとさらに向上しているのとらえています。

まず 4 月の状況で、小学校 6 年生のクロス集計の結果なのですが、まず上の段は、5 年生までに向けた事業で、PCタブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたかという実績割合です。

子どもたちがほぼ毎日使った週 3 回以上、これを黄色の網かけでしたのですけれども、その数値がここに示すように 33.7%と 35.8%になっています。

数値は全国と比べるとプラス 8.8 ポイント、つまり、全国と比べても臼杵の子どもたちは、ほぼ毎日週 3 回以上使っている割合がかなり高いと考えています。

そして、この 2 項目はどういうアンケートかという、5 年生までの学習の中で、PCタブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことをあなたにどれくらい当てはまりますかで、中身がわからないことがあったときにすぐ調べることができるという項目を引っ張ってみました。

何かというと、臼杵市では個別最適な学びと協働的な学び。これ文部科学省の令和 3 年度に出た令和の日本型学校教育で出ているのですが、個別最適な学びと協働的な学びがいかに充実するかということを取り組んでいます。

その項目の1つとして、個別最適な学びの例として、わからないときがわからないことがあったときにすぐ調べることができる。のデータです。

とてもそう思うとそう思う子が61と32.9%、合わせて~~90~~93.9%の子が好意的な答えになっています。

この数値としましても、全国比がプラス3.0.3ポイントということで、全国を上回って、その使用量について好意的にとらえている方が多いというに考えています。

そして、この平均正答率の部分クロス集計なのですが、1のところに戻って、上から順番に、これ使用頻度が高いのですが、使用頻度が高い方が、正答率が高いという結果が出ています。

特に面白いのは、算数の方でICTを使った方が、効果があるのかなという数値がはっきり現れているような気がします。

あと、こちらわからないことがあったらすぐに調べることができるという好意的に答えているこの方が、国語と算数についても、かなり高い割合になっていると。

ただ、下段が71.4と高いところあるのですが、3名の児童の答えですのでこれ統計的になかなかその通り取れないってところあるのですが、おそらく数値的に見ると、やっぱり好意的にとらえてICTを使っているこの方が、正答率も高いと言えるのではないのかと思っているところです。

3つ目が、友達と協力しながら学習を進めることができるの、好意的な回答がやはり93.9%。

こちらについては全国比でプラス4.5ポイントという形で、かなり白杵の子たちは、共同的な学び、友達と協力しながら学習を進めることができるという好意的な回答が多いということが伺えます。

これにつきましても、やはり好意的にとらえている子の方が、正答率も高いということでやはり共同的な学びでも、ICTの活用意識がかなり影響している、かなり使ったほうが効果があるという状況です。

続いてこれが同じ内容を中学校3年生のデータで見たときになります。

中学校3年生も、まず同じように生徒数のどれだけ使うかで、ほぼ毎日週3回以上使う子がこの数値となっていて、実はこれ全国比かなり15.6ポイントということで、中学校は全国に比べてもかなり使っているということがいえるのではないかと考えています。

そして、中学は特にこの正答率が小学校に比べて如実に現れているというか、やはり使っている子のほうが、国語にしても、数学にしても平均正答率が非常に高いということですので、やっぱり今の教育委員会の施策としましてはしっかり使いながら、実力がついたかどうかを見極めて、今後の活用を進めていくということが、この数値からもとても大事ななところだと思います。

2項目が同じく、わからないことがあったときにすぐ調べることができる。

これについても、やはり好意的な回答がもう9割5分を超えているということと、全国比プラス1.8ポイントということでやはりこちらも好意的にとらえている子が多いということ。

そして、友達と協力しながら学習を進めることができるにつきましても、やはり9割を超えるということで、これは全国比がプラス8.3ポイントということで、やはり、わからないことがあったときにすぐ調べる。

そして3つ目の友達と協力しながら学習を進める。これについても、白杵の子はかなり好意的にとらえているのではないかと考えているところです。

これが今までの数値の説明なのですが、先ほど説明したICTの使い方について、5分程度の映像を使って、電子黒板が導入されて、この2学期以降の学習の様子を示した動画を作りましたので、それをご覧いただきながら、そのあとにご意見いただきたいと考えています。

これから5分程度の映像を流します。

～電子黒板に関する映像視聴～

市長

はい、ありがとうございました。

<p>神田委員</p>	<p>最後に、あくまでツールとして使うということと、目的としては、個別最適な学びと協働的な学びをしっかりと充実させるということ。</p> <p>そのためのツールとしてICT、特にこの電子黒板タブレットを活用しながら、今後も取り組みを進めていきたいと考えているところです。</p> <p>ご意見ご指摘どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>はい。説明ありがとうございました。</p> <p>この学力向上の取り組み、特にiPadを使った実践的なものを、映像を含めて今見せていただきました。ご意見等あったら出していただきたいと思います。</p> <p>はい、iPadを使った授業ですけれども、授業を見に行ったりしても本当にシームレスに普通の黒板とiPad、そして電子黒板とすべて上手く使われている学校が多いのは確かです。</p> <p>ノートを書かないのが物足りないと感じる我々世代ですが、iPadで大丈夫かなあと思っていました。実際に学力も定着してきていますし、問題なからうかと思えます、今見せていただいた動画があると思うのですが、たぶん子どもたちに作らせたならあの倍良い動画ができる。</p> <p>文化祭でもそうだし、プレゼンテーション資料についても本当にiPadを使ってパツとやる姿は、もう今どきです。本当にうまく使われていて先生方もそのために、そういうテクニックなどかなり努力されているような気がします。</p> <p>はい。</p> <p>ですので、継続していければいいと思うのですが、iPad自体が私は1つ心配なことが、今後、iPad自体が型落ちになったり、OSが変わったり、ソフトウェアが対応しなくなったりしたときが、やはりまた大きなお金がかかるのは少し心配かなと思っています。以上です。</p>
<p>学校教育課 参事監</p>	<p>はい、神田委員のご指摘についてであります。iPadの更新、令和2年度に全市、全台導入いたしましたので、5年間の一応サイクルで更新をしたいと考えております。</p> <p>令和7年度が更新の年度になりますので、来年度、更新をします。</p> <p>機種については、使い勝手等を考えると、同等の使い慣れたiPadになるのではないかと事務局では、予測をしております。</p> <p>前回県と共同購入と共同調達。前回やりましたので、そういった購入方法も含めて検討しております。</p> <p>更新を5年ごとにするということで、考えております。以上です。</p>
<p>木本委員</p>	<p>学習ツールとしてICTが、非常に効果があるというのは今説明を受けただけでなく、実際に授業を見ていても、私も実感してぜひ推進して欲しいなと思っています。予算的なことも含めて、市の方からも援助をお願いしたいと思います。</p> <p>もう1点は、今後、生きていく子どもたちにとって、ICTとかAIというのは、やっぱり使いこなしていくことは、必要だろうと思うのですが、今後の課題として、ICTとかAIを使いこなしていくことができる基盤というか、学力というのをもう少し、国全体もそうなのですが、研究とかをしながら、取り組んでいくべきかなあと。ICTを使ってみたら共同的な学習が進んでいるという子どもの感想もあってそうだろうなというふうに、思いましたけども、よく見るのはやっぱパツとみながら発表していて、なかなか人の顔見て、目を合わせたとかですね。</p> <p>道具がないと、逆にコミュニケーションが取れないような人になってもらったら嫌だなあと。</p> <p>というようなところもありますので、そういうこれから先のことも見つめた取り組みもぜひお願いしたいと思います。以上です。</p>

<p>学校教育課 参事監</p>	<p>木本委員のご指摘についてお答えします。</p> <p>ご指摘の通り、令和 3 年度からiPadを使った 1 人 1 台体制で学習を進めておりますが、ちょうどその頃コロナ禍の時期とも重なりました。</p> <p>オンラインを急遽、環境を整備して、自宅でもできるような体制を取りました。</p> <p>その際に、勉強は家にいてもできるのではないかという声もあったのですが、やはり学校にみんな集まって、対面で行う授業の重要さも改めて気づかされたということで、ご指摘の通り、これからの時代を生き抜く子どもたちにICTというのはもう必須のツールではありますが、やっぱり対面のコミュニケーション能力というのと同時に育てなければいけないと考えておりますので、それも大事にしながら、両輪でやっていくということで考えております。</p> <p>先ほど、神田委員がおっしゃったように、電子黒板とかiPadも先生に子どもたちが教えてあげるようなスキルを持った子どもたちも少なくありませんので、そういった能力は、もうこの時代時間とともに、みんな向上していくと、スキルを高めていくというところは、子どもたちに共通した、ものになっていくのではないかと思いますので、必要なスキルは、卒業までに備えるように努め、教育委員会としても努めていきたいというふうに考えています。以上です。</p>
<p>村上委員</p>	<p>説明ありがとうございました。</p> <p>子どもたち、神田委員もおっしゃったように学校訪問とかしたときに、大変しっかりと子どもたちがiPadを使いこなしているなど、目で見てすばらしいな、先生よりすばらしいなというも思っておりましたので、集計表を見て、本当に全国比で大変高いポイントを表しているのですが、一定数だけが使いこなしていないというのは、本当に残念なことだなと思ひまして、実際学校訪問のときにも、ちょっと数名クラスで 1 人か 2 人はいつもよく先生の説明がわかってない、使い方がわからないという子どもがおられて、ちょっと先生も気をつけてはいるようですが、それでも本人が理解できてないという子どもがいるようなのでそのところはもうちょっとこう、寄与も寄り添う、フォローして欲しいなと思います。</p> <p>電子黒板は大変良いなと思って、先ほどのビデオも見ました。授業前に自分たちが勉強するとか、あと先生の負担軽減にとっても良いなと思って見ました。</p> <p>昔だったら翌日の授業のための資料づくりとかをして、黒板にわざわざマグネットで貼ったりとかしていたのが、もう電子黒板で移せてそして子どもたちにもしっかりと見せられて、本当にいいと思います。</p> <p>今後ただ子どもたちになるべく、将来大人になったときに会社勤めとかでプレゼンテーションの機会があると思うので、より一層みんなほとんどの子供たちにプレゼンテーションの機会を与えるように指導して欲しいなと思いました。</p> <p>これからもぜひ、電子黒板やiPadを子どもたちのために予算を取って、使っていただきたいと思います。</p> <p>あとは、何人かの ICT に慣れていない子どもたちのフォローもよろしく願っていたと思います。以上です。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>私も見させていただきまして 3 名の方と、基本的には同じなのですが、やっぱり今の時代にあって授業なのかなと思いました。</p> <p>村上委員も言われていましたけれども、使いこなせている生徒がほとんどなので、やっぱり時代に合っていて、タブレットや電子機器なんかも普段から身の回りにあって、使うことに慣れているので、そういう授業にも入っていきやすいのかなと思いました。</p> <p>私も学校は特に 1 年生の授業を見る機会が普段ありまして、その感想も含めてなのですが、そういう授業は先生が、いろんな作業が楽になって、手間が省けて、いい面もあるのですが、生徒さんは、やっぱり書く機会が減ってくるのかなと。そして書くことに慣れなくなって、時代の変化だからしょうがないのかもしれませんが、村上委員も先ほど言いましたけど、それについて行けな</p>

<p>市長</p>	<p>い、個人個人の得意、不得意もあって、完全にそういう授業ばかりではなく、そういうのが苦手な どうか、従来の教育のほうに合っているような子どもも少なからずいるような気がしますので、 そういう部分も考えて、これからいい部分はどんどん生かしていただいて、複雑になるとは けど、そういう、指導も考えていただけたらなと思います。</p> <p>はい、ありがとうございます。</p> <p>私の感想なのですが、今クロス集計を見て、先生も生徒もせっかく使うのなら、どう使いこな せるかっていうことが大事だと思います。</p> <p>先生にも非常に濃淡があると思いますし、これ見るとレベルを上げるためにはやっぱり週1回と か月1回など、これはなかなか取り組みがない、取り組んでないという状況というのはあると思 うのですが、そういう人たちが取り組みやすい、親しみやすい環境をどう作っていかっていうこ とも、全体のレベルアップに繋がるのではないのかなと思ったのと、ICTとかAIとは基本的にテク ニカルな問題なので、授業効率とかいろんな形で良いていうのは間違いないのですが、ちょっと 例えが適切ではないかもしれませんが、お医者さんが患者に向かわずにパソコンに向かって治療 する。なんて行き過ぎたことになっちゃうと、学校も大変だなあと。いわゆる人間関係とか、そう いう非認知能力も含めてですね、ただ認知のそこは効率的でいっていいのではないかと、そこ までも人間形成ということは、その辺のところのバランスみたいのもやっぱりあると思うし、い いものを使っていけば必ず光があるし影が出てくるっていう前提でどういうふうにも光は強 くしながら影っていうものを克服していくかっていうのは常にあると思うので、それは、今 言うように先生たちがAIを使う中で、発見していけるのかなと思います。</p> <p>これから非常に財政も厳しくなる中ですが、このことが働き方改革とか授業の事前研修 あたりで非常に効率的になっていくという意味でのいい面もありますので、その辺のところ をこれから実践の中でいいところを伸ばし、課題があるところは克服して欲しいと聞きなが ら思いました。非常に方向としては、いい方向だと思いますが、ぜひその辺のところよろ しくお願いします。</p> <p>次に行きますが、何かありましたら最後に皆さんにお聞きしたいと思います。</p> <p>中では、学校部活動の地域移行の現状と課題について、社会教育課の方で説明してく れるかな。よろしく申し上げます。</p>
<p>社会教育課長</p>	<p>はい。よろしく申し上げます。</p> <p>資料をご覧ください。</p> <p>白杵市の中学校部活動の地域移行の現状についてご説明いたします。</p> <p>はじめに、これまでの経過です。</p> <p>経緯ですが、令和4年6月にスポーツ庁が設置した運動部活動の地域移行に関する検討会 議において、令和5年度から、休日の部活動から段階的に地域へ移行することが示されま した。</p> <p>このことを踏まえて、令和4年12月に学校部活動及び新たな地域クラブ活動のあり方等 に関する総合的なガイドラインが策定されました。</p> <p>そのことを受けて令和5年3月に大分県が策定した、大分県の学校部活動及び新たな地 域クラブ活動のあり方に関する方針では、休日の部活動は令和7年度末までに地域ク ラブ活動へ移行することを目指すことが示されました。</p> <p>本市においても、これらを踏まえ教育委員会や中体連を中心に各競技部との協議を重 ね各競技の実情や生徒の多様なニーズに沿ったものとなるよう創意工夫し、段階 的な地域移行を進めていくこととしております。</p> <p>その段階で地域クラブに移行し、中体連に所属していない競技としてサッカーやラ グビーがありました。</p> <p>現在では、各中学校単位での人数確保ができず、拠点型部活動として活動している 競技も増えている状況です。</p>

	<p>各競技の現在の状況になります。</p> <p>軟式野球ですが、令和 3 年 4 月から東中、北中、野津中の生徒を対象に合同部活動として活動し、本年 8 月から臼杵市軟式野球クラブとして新たに活動を開始しております。</p> <p>西中学校も単独校としての生徒の確保が難しくなり、本年 7 月に新チームから拠点型部活動として部員 10 名で活動を開始しております。</p> <p>ラグビーについては、令和 4 年 4 月から拠点型部活動として部活動指導員 1 名を配置し、部員 20 名で活動中です。</p> <p>剣道は、本年 8 月拠点型部活動として部活動指導員 1 名を配置し、活動を開始しております。北中学校を拠点に男子 7 名、女子 6 名です。</p> <p>ソフトテニスも、昨年 7 月から拠点型部活動として活動を開始しております。男子が西中を拠点に 14 名、女子が北中を拠点に 22 名、となっております。</p> <p>ここで部活動指導員の説明ですが、顧問教員にかわって単独での指導や学校外での活動等の引率業務ができる会計年度職員となっております。</p> <p>その他、下段、地域クラブ、社会体育として活動している競技ですが、サッカー、バドミントン、柔道、水泳、テニスとなっております。</p> <p>次のページをご覧ください。</p> <p>ただいまご説明したのが黄色の部分になります。</p> <p>この中でラグビーとサッカーについては中体連に加盟していないので、この集計には入っておりません。</p> <p>また、このデータは本年 4 月時点のもので先ほど説明した人数と多少ずれていることをご了承ください。</p> <p>私からは以上になります。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>すいません。私の方から、次 3 ページ目 4 ページ目の説明をさせていただきます。</p> <p>3 ページ目からが、臼杵市の中学校部活動における地域移行に向けた推進計画概要版の案ということで出しています。</p> <p>部活動の地域移行につきましては、やっぱり全国的にも話題にもなっておりまして、進めていくのでありますが、やはり地域の特性であるとか人によってそれぞれ目指すものとか、その形が違ってまいります。</p> <p>それについて、ある程度こういう形で臼杵市が目指しますということを示す必要があるだろうということで、案ということですが、検討を進めているという形でのものになります。</p> <p>ここに課題であるとか基本方針そして移行期間で地域クラブ活動の実施主体及び運営団体、そして活動場所と地域クラブ活動の運営、そして次のページになりますけれども、様々安全管理及び事故防止保険加入推奨であるとか、地域クラブ活動の指導者、大会コンクールへの参加、その他と、参考として示していただきましたので、もしご意見あればと思っております。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>いろいろ厳しい環境の中で、少しずつ前に進めようということであるのですが、今でもよくわからないのは、この地域移行を進めていくということで、土日をやっていますよね？</p> <p>土日が一定方向行ったら普通のウィークデーも、そっちを持っていくという方向があると思うのです。</p> <p>そうしたときに、全部ウィークデーまで地域移行したら、部活動は学校の仕事になるの？</p> <p>もう学校から離れたほうがいいのか？という意見もありますし、私もそういう意見と、条件整備で大変ですよというのは、以前、県教育委員会の体育保健課に、この問題を大分県の教育でどう考えているのかとお話ししましたが・・・</p>
<p>教育長</p>	<p>国の流れとか、県の流れなど、今の状況を説明して。</p>

<p>学校教育課</p>	<p>はい、今の学校教育課の亀井と申します。</p> <p>今、国が言うことと県が言うこと、また市町レベルで考えることがちょっとずれてしまっていて、本当にねじれた状況になっています。</p> <p>国はもう土日を中心に地域移行しなさいということで、県もそれに沿ってやっているのですが、市町レベルでの話になると、指導者がウィークデーと週末で違うということは、子どもたちにとって、とても混乱が起きることもあるということで、その辺りもとても大きな課題となっています。</p> <p>それから一番大きな課題としては、地域移行という言葉だけはあるのですが、そのでき上がったイメージというか姿が、みんな違うイメージを持ってしまっていると。国が持っているイメージ、県が持っているイメージ、市町が持っているイメージ、先生方それぞれが持っているイメージも違って、ただそこをどんなふうにしり合わせていくかということをやっている状況なのですけれども、なかなかそこが見えないので、臼杵市は先ほど新名課長が説明しましたが、推進計画、臼杵市としての姿を少しずつ作っていきこうということで、今取り組みをしているところです。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>教育委員の皆さん何かありますか。</p> <p>私は、最終的にいろいろ言いながらも、落ち着かせざるを得ないけれど、諸条件、人的あるいは財政的なもの、いろいろなことを含めて最終的に子どもに格差が、ストレートに出ないことをどうやっていくかは、ぜひ教育委員会の中でも、強くやっていただきたいというふうに思います。</p> <p>やっぱり、明日を担う人材は子どもしかいないのだから、良い子を育てていくためには、もう少し腰を据えてやらなきゃいけないし、教育委員会と文科省が腰を据えていくと同時に、我々もタッグを組まないといけないと思いますので、ぜひよろしくお願いします。</p> <p>この場で現状とこれから方向、いろいろ説明いただきました。</p> <p>大変だと思いますが、ぜひ教育長を中心に、うまくソフトランディングできるように子どものためにもやっていただきたいと思いますし、また必要があったら市長部局にもどんどん情報入れて協議を進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>次に、報告事項の臼杵市の未来を考える中学生と市長との意見交換会について、秘書総合政策課説明をお願いします。</p>
<p>秘書・総合政策課</p>	<p>はい。秘書総合政策課の芦刈です。</p> <p>臼杵市の未来を考える中学生と市長との意見交換会について説明させていただきます。</p> <p>左上に、資料 3 と書いた A3 の用紙をご覧ください。</p> <p>申し訳ありません、説明は着座にてさせていただきます。</p> <p>まず、この意見交換会の開催の経過について説明をさせていただきます。</p> <p>中学生と市長との意見交換会については、地域の未来を担う子供たちに、臼杵の現状や魅力、未来像を考えてもらおうと、中学校のご協力をいただき、意見交換会という形で開催しています。</p> <p>開催初年度の平成 30 年度は、臼杵西中、令和元年度は南中、令和 2 年度は野津中、令和 3 年度は東中、令和 4 年度は北中で開催し、令和 4 年度をもって臼杵市内、5 つの中学校すべてで意見交換が実施され、昨年度令和 5 年 11 月 1 日に西中で開催された意見交換会より、2 巡目の開催となっております。</p> <p>今年は 10 月 9 日に南中学校で開催され、1 年生から 3 年生全校生徒 35 名が、総合的な学習の時間の中で、自分たちが調べて考えた内容を市長に提案し、意見交換を行いました。</p> <p>それでは、南中学校との意見交換会について資料 3 に沿って説明をいたします。</p> <p>意見交換会の目的としては、1 点目、自分たちが暮らす臼杵市について、自分との関わりや興味関心のあることや、地域での取り組みを参考にすることで、臼杵市の魅力を再発見し、まちおこしの方法を考える。</p> <p>2 点目、総合的な学習の時間と家庭科を関連づけ、その成果としてこれまでの学習した内容を</p>

	<p>工夫して、相手に伝わるように発表する。</p> <p>3 点目、自分たちで調べて考えた内容を市長と意見交換する中で、探求的な課題としてさらに発展させ、今後の臼杵市について考え続ける態度を育成するを目的としています。</p> <p>当日は、1 年生が食料、飲料水自給自足チーム、エネルギー自給自足チーム、2 年生が廃校利用 A チーム、廃校利用 B チーム、3 年生が働き方改革チーム、教育改革チームと計 6 チームに分かれて意見交換を行いました。</p> <p>各チームからの提案タイトルや内容、それについての市長のコメント回答については、資料 3 の右側へ掲載しています。小さい文字で申し訳ございません。</p> <p>生徒たちからの提案発表内容は、調査研究が充実していました。</p> <p>意見交換会后、生徒からこれからの臼杵市のあり方を知ることができてよかった、私たちにできる臼杵市への貢献をしていきたい。と感想をいただきとても有意義な意見交換会となりました。</p> <p>以上で秘書総合政策課からの報告を終わります。</p>
<p>市長</p>	<p>はい。これは、教育長から感想があれば、お願いします。</p>
<p>教育長</p>	<p>はい。これの始まりが、もともとは夏休みに子ども市議会という形で、子どもたちに市議会を経験させていただくということもあったのですが、3 年生の授業が 2 学期から地方行政を勉強するというので、ちょっと教科書の教育課程と合わない部分もあって、ちょうどその頃 iPad が学校に普及し始めたところで、子どもたちも総合的な学習の中で、市の施策について興味を持ってプレゼンをする。そういう機会が各学校ででき始めたときに、私が西中校長のときに市長をお願いをして、ぜひ子どもたちのプレゼンを聞いてくださいとお願いをして、始まったところであります。</p> <p>今回で 2 巡目の 2 校目でありましたけど、南中学校も普通の学校でいくと 3 年生が中心になってプレゼンをするのですが、全校生徒が 35 名でありますので、1 年生 1 年生なりの 2 年生 2 年生なりの 3 年生の 3 年生なりの視点で、市長に対してプレゼンができたかと思っています。</p> <p>子ども達が市の施策のことはあまり知らないの、すでに市がやっているようなことを子どもたちが調べて提案をしていましたが、子どもたちが一番喜んでるのは、1 つ 1 つのプレゼンに対して、市長が丁寧に答えをしていくという、子どもたちにとって自分たちの考えが市長に届いているという、その実感がやっぱり大きいのかなと思います。今年南中も見ただけですが、小さな学校でも大きな西中でもレベルは若干違うところもありますが、同じような視点で、同じようなツールを使って、人前で堂々とプレゼンができる子どもたちが、おかげさまでこの 7 年間で育ってきているなと思ったところであります。</p> <p>この間は、コロナも経験して、iPad が無い時に市長がすぐにということで、他の市町に先駆けて全生徒タブレットが入りましたし、この夏は、3 年ぐらいかかるかなと思っていた電子黒板はもう一気に予算を取っていただいて、配置をしていただいた。</p> <p>また、ICT の環境も順次不具合が出るのですが、そのたびに、調整をしていただいているので、臼杵の子どもたちにとっては、本当に良い環境の中で、学習が進められているなあと感じているところであります。</p> <p>2 巡目もあと 3 校ありますので、また次の市長さんも引き継いでいただけるとありがたいなと思っています。以上であります。</p>
<p>市長</p>	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>私も子どもたちとこういうことをするのが大好きなので毎年楽しみにしており、出会いの場を作ってくださいありがたく思っているのですが、南中 1 年生 2 年生 3 年生、テーマから見ても子どもたちが 1 年 1 年成長していくなあっていうのがよくわかるようなプロセスがありました。</p> <p>特にさっき言っていた IT とかいろんな形を使ってやっていく中で、情報を検索するのが非常にうまくなってきている。</p>

ただ、例えば1年生の水力発電でいろいろなことを調べているのですが、その情報と自分たちの住んでいる町をつき合わせた上で、発言するところがまだ1年生は…情報をしっかり調べて勉強しているけど、地に足がもう1つつくような形で言ってくると説得力があるなってというのが、だんだん2年、3年になって成長してってくれるのではと思って楽しみにしているのと、3年生のジェンダーの問題とワークライフバランスや不登校って、今の時代の中での大きなテーマに対しては敏感になってきて、自分たちなりに深掘りして何か課題を見つけて提案してくれるということが、大変心強く思っております。そういう形で、これがずっと続いていけばいいかなと思っています。

ただ、そういうふうにして臼杵が大好き、臼杵をより良くしたいという形でやってくれているのが伝わるのですが、これ我々大人の責任かと思うのですが、今回南中か西中のどちらかだったのですが、子ども同士でアンケートしていて、あなたは30歳の時に臼杵市にどれくらい残っていますかと聞いたら、2割、3割しかない。

みんな1回は市外に出たい。出るのしょうがないけど、もう1回臼杵に帰ってこようっていうか、言ってもらえるような子育て環境とかいろんなものをこれから作っていくかが、大きな課題だなと思いました。

何かこれについて、こういうことしたらもっといいよとかあれば…はい、どうぞ。

村上委員

この様子を臼杵ケーブルテレビで放送されているのを見ました。

中学生が活発に斬新な意見を、内容は詳しくはその時わからなかったのですが、しっかり意見が出ている姿を素晴らしいなと思って見ました。

というもやっぱり市長が、生徒たちの意見を一生懸命聞いて、良いところは取り入れるという姿勢を今までされてこられたからだと思うのですね。

例えば、昨年ほんまもん野菜のロゴを採用しましたが、子どもたちも一生懸命臼杵を良くしようと考えている意見を出すのですが、大人の方が受け付けなかったらもう考えるのもやめようになってなるところを、ちゃんと市長は聞いて受けとめて、形にしてくれるのだっていうのは、子どもたちのやる気とか自己肯定感をすごく上げると思うのですね。

それはとても重要だと思うので、今後も今の形を続けて欲しいなと私は思っております。

これからもこの姿勢をよろしく願いいたします。

市長

テーマに沿って、担当の政策監と課長がずっと聞いて一緒に聞いていただいて、議会と同じような体制でその中で、私もお願いしているのは、最低でも1つは実現していこうと。そうすることによって答えることになるのだと最初に思って、東中から提案が出たときに子どもたちを連れて、避難する時に臼杵城跡に行くと、それを自分たちでする中で、今橋かな？あそこは石橋なのですが、これでフーツとみんなが逃げたら落ちちゃう可能性があるんで、ぜひあそこに柵を作りたいということが出て、それはいいことだな、それも我々大人が普通歩くだけでは気が付かなかったなと。足の不自由なおじいちゃんやおばあちゃんと一緒にとか、保育園の子どもと手を繋いでいるときにあそこで落ちたりしたら、危ないと…まさに中学生が新しいことを我々に教えてくれて、すぐに柵を作ったのですよね。

そして、そういうことをすることについては、いいと思ったことは市もまっすぐ対応してくれるのだという、これがこれからずっと続ける上でも大切じゃないかなと思っていますので、ぜひそういうことは教育委員会の方も、この次の人にバトンを渡すときにはこれからもやっていただくとありがたいかなと思っています。

他にこれに関してはよろしいですか。

必要があれば、意見交換会はオープンにしています。教育委員の方も見に行くのもいいのでは。クローズじゃないので、皆さん関心があれば、ぜひ来ていただきたいと思います。

それでは全体を通して、あるいは今日のテーマ関係なく、日頃教育委員としていろいろ見たり聞いたりしている中で、このことだけはぜひ発言したいということがありましたら、出していただき

<p>神田委員</p>	<p>たいと思います。</p> <p>はい。1、2、3 資料をすべて見ても学力も向上しつつある。</p> <p>そして部活動も今後考えており、そして資料3の、こういう市町村があるかどうかわからないけど、市長が直接、生徒の前に出られてお話をすると。やっぱり子どもたちのモチベーションも違いますし、いろんなその実現する市を作り上げる、作り上げたいと思うきっかけになるようなイベントもある、そういう臼杵市にいるということが子どもたちに実感がまだないような気がするのです。</p> <p>確かに数年前は学力もあまりよくなかった。でも、どんどん良くなってきて、臼杵市で学ぶこと育つことが、とても良いことだと、子どもたち自身が思えるような広報とかアプローチとかは、必要かなとは思いますが、本当に先ほど言おうかなと思ったのですが、資料3の市長との意見交換会については、市長が直接出られるっていうのはとても…私第 1 回のときにも言ったのですが、いいことだと思っていてこの企画が長く続いていることがとても子どもたちにとっては、先ほど市長もおっしゃっていましたが、実現していることが数年後、あれを我々が言ったことが実現しているなあとか、1年後を実現しているっていうのは本当に市に帰ってくるモチベーション、働こうと思うモチベーションになると思いますし、とても重要なことだと思います。</p> <p>だから、自分たちが臼杵市で学んでいることの誇りとか、それがいいことだと思う、何かしらの広報が、今後はもっと重要になるかなとは思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>そのことは市政全般にわたって、教育委員会のやっていることもいろんな形でまず知っていたかかないと次のステップに行かないので、こういうことをやっていると、それは本当にいいことじゃないか、でもこの辺をやるともっといいよねっていうのは、そういうキャッチボールがどんどん進んでいく形での関心を持ってもらうためのPRというのは、我々一番今まで手がかかる、手を抜いているわけじゃないのですが、なかなかそこまでいってないですし、よく言われるのが臼杵はいろいろな素材があるけど、例えば城下町とか石仏ってあるけど、PRが下手ですね。おいしいフグもあるのもっともっとお客さん来るはずなのに、何をしていますのかと発破をかけられるので、その辺は十分自覚しており、何とかいろんな形で発信していきたいと今取り組んでいますので、教育のことはぜひ教育委員会の方も考えていただきたいと思えますし、市長部局も秘書・総合政策課のスタッフがおりますので、その辺のところをしっかりとやっていきたいと思っております。</p> <p>他にございませんでしょうか。</p> <p>なければ時間ですので、閉じたいと思うのですが、よろしいですか。</p> <p>はい。それではありがとうございました。</p> <p>これからもこういう形で続いて、子どもたちにとって臼杵が本当に第 2 のふるさと、臼杵で育てよかったと、私のふるさととは臼杵なのだと胸張って言えるような、胸張って言えじゃなくて、彼らが自然にできるように今の大人である我々がそういう関係を作りたいと思っていますので、これからもよろしくお願いします。事務局にお返しします。</p>
<p>秘書・総合政策課 課長</p>	<p>はい。</p> <p>本日は大変お忙しい中、また長時間にわたりご協議いただきまして、ありがとうございました。</p> <p>今年度の取り組みですとか進捗状況など、とても市長と教育長教育委員の皆様との共通認識を持たれたかと思っております。</p> <p>今後も引き続き、教育大綱に沿った姿を教育委員会と市長部局で作っていきたいと考えております。</p> <p>それではこれをもちまして令和 6 年度総合教育会議を閉会いたします。</p> <p>皆様どうもありがとうございました。</p>